

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0890400047		
法人名	社会福祉法人 和風会		
事業所名	グループホーム 秋明館		
所在地	茨城県古河市諸川2528-1 (電話) 0280-75-1133		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年4月23日

【情報提供票より】(平成20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	10人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 平屋建て		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	28,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成21年1月21日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護1	4	要介護2	6		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 82 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	友愛記念病院、酒井医院、緒方歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年3月に開設された木造家屋の落ち着いたホームである。
家庭的な環境のもと利用者一人ひとりの能力に応じた日常生活ができるよう管理者と職員は日々のサービスに努め、利用者がその人らしい快適な生活が継続できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審につき該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者だけで作成しているので管理者や職員は外部評価の意義や目的を理解するとともに全職員で自己評価を作成し、気付きなどをサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は管理者や計画作成担当者、市職員、家族の代表、民生委員で構成し、事業計画や報告等を内容として1回開催している。 会議では自己評価や外部評価、ホームの課題などを話し合い、サービスの質の向上や地域との交流に活かすことを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の様子を家族の来訪時に報告するとともに、訪問が少ない家族には電話で報告している。 また、利用者の健康状態等に変化が生じた場合はその都度連絡している。 金銭管理は毎月の請求時にレシートを添えて報告している。 季節ごとに広報紙の発行を計画している。 現在苦情はないが、苦情相談受付窓口を館内に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育園児や小学校の児童(子ども会)とふれあうとともに、中学生や高校生が体験学習で来訪し交流している。 今後は自治会活動を通じて地域の人々と交流することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭にいるような安心感と笑顔のある生活が出来るように、また、個々の能力に応じた日常生活が続けられるよう支援いたします」との独自の理念をつくり支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務室、トイレなどの目立つ場所に理念を掲示し全職員で共有できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児や小学校の児童（子ども会）とふれあうとともに、中学生や高校生が体験学習で来訪し交流している。	○	今後は自治会活動を通じて地域の人々と交流することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成している。	○	管理者や職員が外部評価の意義や目的を理解するとともに全職員で自己評価を作成し、気付きなどをサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は管理者、計画作成担当者、市職員、家族の代表、民生委員を委員として、事業計画や報告等を内容として1回開催している。	○	自己評価や外部評価、ホームの課題などを話し合い、サービスの質の向上に活かすことを期待する。 また、地域の代表や老人会の代表を委員に加え地域の人々との交流に活かすことも期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の介護保険推進会議委員として会議に出席し意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子を家族の来訪時に報告するとともに、訪問が少ない家族には電話で報告している。 利用者の健康状態等に変化が生じた場合はその都度連絡している。 金銭管理は毎月の請求時にレシートを添えて報告している。 季節ごとに広報紙の発行を計画している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、意見や苦情はないが苦情相談受付窓口を館内に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者毎に担当者を決めているが全職員で支援し、不安を与えないよう努めている。 やむを得ず職員が離職する場合は十分な引き継ぎをして安心した生活が継続できるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会を2ヶ月に1回開催し研修しているが、段階に応じた職員研修を実施するまでには至っていない。	○	職員の段階に応じた研修計画を作成し実施することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会や時間を確保するまでには至っていない。	○	運営者は管理者や職員が同業者と交流を通じてサービスの質の向上に取り組むことができるよう支援することが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用者や家族と面会し要望や意向を把握しているが、利用者が事前にホームの雰囲気に馴染めるよう取り組むまでには至っていない。	○	利用開始にあたり、利用者が体験利用などで職員や他の利用者と接する機会を設けホームの雰囲気に十分馴染んでから利用ができるよう工夫することが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は配膳や食器洗い、シーツ交換など利用者ができることを一緒に行うとともに、昔の生活の知恵を教わるなど互いに支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の状況を見守りながら利用者一人ひとりの思いの把握に努めるとともに、職員で話し合い利用者の意向を共有して支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を反映させるとともに職員で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直すとともに状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況などその時々々の要望に応じて買い物や通院支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を確保するとともにかかりつけ医に継続して医療が受けられるよう支援している。 また、隣接する特別養護老人ホームの看護師から協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに対する方針は利用開始時に家族と話し合っている。 また、母体の特別養護老人ホームと連携している。	○	将来に備えたマニュアルを作成し、利用者や家族の意向を確認しながら対応方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドを損ねないよう言葉かけや行動に配慮している。 また、個人ファイル等は事務室の書庫に保管し情報が漏れないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と共に食事の準備や後片付けをしている。 職員は利用者の間に座り一緒に食事を摂りながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は職員が決めているが、入浴の順番は利用者の希望にそって支援している。 ユニット間で入浴日を交互にずらし、希望に応じて毎日でも入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや編み物、ぬり絵など利用者ができることや得意なことへの出番をつくり、生活に張り合いがもてるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、利用者の希望やペースにそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており利用者が不穏時だけ施錠している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施している。 今後は消防計画に基づき定期的実施する予定である。	○	運営推進会議等で災害時の協力を依頼するとともに、消防署や地域の人々の協力が得られるよう連携を密にすることが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し職員で共有している。 栄養士による献立チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に天窓を設けて採光や換気に配慮し快適な空間を保っている。 また、季節の花を生け落ち着いた環境づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室に使い慣れた物を持ち込み、それぞれに工夫して居心地よく生活できるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。